

## 校長通信③

### 副学籍制度を利用した居住している地域の学校との交流

本校児童生徒が在籍している下伊那地域の10市町村では「副学籍制度」が導入されており、制度を利用した居住している地域の小中学校との交流が行われています。新型コロナウイルスの影響で、直接の交流教育は少なくなっていますが、居住している地域の友だちと共に過ごす時間は、本校の児童生徒にとっても有意義な時間となっています。

交流の仕方はそれぞれで、行事への参加を主としている場合もあれば、毎日登校前に交流している学級の朝の会に参加してから飯田養護学校に登校している場合もありますが、飯田養護学校に在籍していても、居住している地域で同じ空間、同じ時間を過ごすことで、一緒にいる皆さんも「地域の仲間」として自然に関わる姿が見られるようになっていきます。

副学籍制度については、市町村等で広報していただいています。教職員や保護者の方にも知られていない場合もあります。副学籍制度を利用し、その制度の良さをとても感じておられる本校保護者の方が、7月に飯田下伊那PTA会長会で養護学校の現状と共に、副学籍制度について紹介してくださいました。

発表の中で、継続して交流を続ける中で、互いに成長している姿がとても印象的でした。



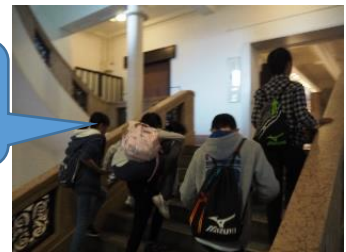
修学旅行の班行動。「Aさんのペースで歩くんだから」とゆっくりと同じペースで歩く班の仲間。



階段が苦手な疲れが見えたAさんを見かねて、無言で背負い階段を上る友だち。

友だちと一緒に給食の配膳や雑巾がけをするAさん。

中学生になっても小学校からの友だちを通してさらに友だちの輪が広がっている。



副学籍校交流は、本校の児童生徒にとっても同年代の仲間と過ごす中で自分のもっている力に気づき、伸ばすことができる場であるとともに、交流校の児童生徒にとっても「優しさ」や「気遣い」などの心の成長にもつながっており、これからの多様性のある社会の中で生きていく力を互いに育むことができる機会となっています。

これからも、こんな素敵な交流が広がっていくことを願っています。